



特集

【対談企画】公園の“子育て効果”を専門家に聞く！

公園は元気な子どもが育つ理想の空間

子どもたちの体力の低下について、以前から様々な形で“警鐘”が鳴らされており、文部科学省の「体力・運動能力調査」によると、体格は今の子ども達の世代の方が大きくなっていますが、基礎的運動能力はほとんどの項目で親の世代を下回っています。

身長・基礎的運動能力の比較	男子		女子	
	親の世代	今の子ども達	親の世代	今の子ども達
身長(cm)	143.2	145.1(↑1.9)	145.5	146.8(↑1.3)
50m走(秒)	8.8	8.9(0.1遅い)	9.0	9.2(0.2遅い)
ソフトボール投げ(m)	34.0	27.9(↓6.1)	20.5	16.4(↓4.1)

※親の世代は昭和60年度の11歳、今の子ども達は平成26年度の11歳。
※全国平均値は小数点以下第2位で四捨五入しています。
スポーツ庁「子供の体力向上ホームページ」制作公益財団法人日本レクリエーション協会
<http://www.recreation.or.jp/kodomo/current/now.html>より 引用

公園は子どもが外遊びや運動ができる最も安全で身近な公共施設です。このような子どもの体力低下に対して、公園ができることはたくさんあるのでは？と考え、乳幼児の発育発達に詳しい荻須先生にお話をうかがいました。

意外なところで出る運動能力の欠如

一子どもの体力低下が深刻と言われていますが、先生はどのようにお考えですか？

荻須先生 確かに今、中高年以上の私たちの世代から見れば「なぜ、そんなことができないの？」と思うような子どもたちが増えていることは事実です。例えば、ぞうきんが絞れない、水道の蛇口のカーンをひねれない、転んだ時に手が出ない、というようなことが全国的に目立ってきています。転んだ時に手が出ないと、顔に傷を作ったり、ひどい時は骨折というような大けがにもつながります。こうした問題は、本来は遊びや運動を通じた経験で培われるはずの運動能力の欠如が一因となっています。

やはり大事な子どもの遊びと運動

一やはり、子どもにとって遊びや運動は大事なんですね。

荻須先生 とても大事です。遊びや運動で身体を動かすことで基本的な体力が発達することはもちろん、屋外でいろんなものに触れたり、見たり、五感を刺激されることで感覚や知覚器官の感受性も高まるでしょう。他にも大人や友達といっしょに遊ぶことでコミュニケーションを取ったり、ルールを守ること、相手を思いやること

など、基本的な人との付き合い方を身につけることができます。

少子化でも高まる公園の役割

一そういう意味では公園は運動能力やコミュニケーション能力を養う理想的な空間ではないですか？

荻須先生 まったくその通りですね。公園では思いっきり動き回れますし、年齢に応じた遊具も用意されています。走る、ジャンプするだけでなく、複雑な動きや子どもたちの創造性を刺激するような遊びや運動ができる場所です。また公園には自然もある筈ですし、好奇心も養われることでしょう。特に幼児期から小学校低学年までは公園でしっかり外遊びをして欲しいですね。

最近では公園と地域コミュニティとの問題や、子どもたち自身も3つの「間」がなくなった(仲間・時間・空間)など、様々な課題があります。しかし、少子化時代だからこそ、健康で元気な子を育てる必要があります。こうした課題を少しずつ解決して、公園が子育ての場としてもっと活用されるようになればいいですね。

一今日はどうもありがとうございました。

荻須隆雄先生 東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程修了。旧厚生省児童家庭育成課主査(厚生技官)、埼玉県立大学保健医療福祉学部教授等を経て、2013年3月まで玉川大学教育学部教授。博士(学術)。主な著書に『遊び場の安全ハンドブック』(共著 玉川大学出版部 2004、こども環境学会；第1回こども環境論文賞受賞<2006年4月>)、『保育所における事故防止・安全保育』(共著 日本保育協会 2003)など多数

幼児保育の視点からもひと言

東間先生【保育園児と公園の遊び】

東京をはじめ大都市部の保育園は既に定員いっぱいです。保育は殆ど10時間で、園内も狭いので息抜きには散歩に出るのが一番です。しかし数十名もの園児を受け入れてもらえる都市部の遊び場は今や公園だけになってしまいました。車をよけつつ、たどり着いた公園で一息？緑の小道をゆったり・・と思うのはおとなで、園児の気持ちはその先の砂場や滑り台のある広場。大好きな遊具に取りついて遊び続けます。全力を出し切って心身共に満足した後はすっきり顔。その園児の声です。「公園はね、いろんな遊べるものがあるから好き。」今までもずっと遊べてありがとう。今後どうぞよろしくお願いします。

東間掬子先生 元杉並区保育園園長、園庭遊具の研究発表歴30年、日本児童安全学会会員、日本保育学会会員、ホームページ：<http://www.mdn.ne.jp/~touma/>

安心安全の目印 遊具点検時のユニフォームを決めました



今年度より、現場で点検作業等を行う場合に着用するJPFAのユニフォームを制定いたしました。専門技術者が公園で作業を行っている姿をお母さんや子供たちが目にした時に親しみを持っていただけるように、背中に安全

利用表示でおなじみのニワトリとヒヨコのキャラクターを大きくあしらいました。このユニフォームを着た技術者が公園で業務を行うことで公園利用者への公園の安全性のPRIに一層役立つことを期待しています。



遊具の点検がTV-CMやWebマガジンで注目されました

日本コカ・コーラ株式会社の缶コーヒーストック「ジョージア エメラルドマウンテンブレンド 至福の微糖」のTV-CM「公園施設点検員」篇で、JPFAは主役の山田孝之さんが遊具を点検するシーンの監修で協力しました。

また、同社のWebマガジン 週刊GEOGIAのコラム「働キング」では、JPFA会員(株)コトブキタウンスケープサービスの公園施設製品整備技士 相澤良昭さんが取材を受け、遊具の点検について熱く語っています。

その他にも、関連コンテンツ「シゴトライアル」では、実際の点検と修繕の様子が動画もまじえて紹介されています。

これらの機会に子どもたちの笑顔と安全を作る仕事としてスポットがあたったことで、遊具点検の重要性を多くの人に知っていただきました。

TV-CM、Webマガジン、関連コンテンツはジョージアのブランドサイトでご覧になれます。

掲載ページはこちら ▼

TV-CM: http://www.georgia.jp/cm/bit0_30sec.html

働キング: <https://weekly-g.jp/c03worker/s01hataraking/hk107/>

シゴトライアル: http://www.georgia.jp/trial_bit0/



Webマガジン 週刊GEOGIA 第107号より



「働キング」 JPFA会員が取材協力した記事